

地域の課題をとらえて

2氏が一般質問



3月定例会



驚見 悟

・町長の「総合戦略」と過疎化防止策について

過疎化防止について

質問 人口目標を2040年に2千4百41人としているが、平成27年には既に2千4百47人となっている。65歳の人口は平成2年の4百33人から平成27年には、6百49人に増加しており、人口減少、過疎化及び少子高齢化の進行は明らかである。

浜頓別町で行われている無料タクシー券は、高齢者や免許返納者には、ありがたい制度であり、地域に生活する上で、大変喜ばれていると聞いている。幌延町で実施する場合は、予算的にはどのくらいか。

町長 平成28年度から空き家・空き地バンクの運用を開始している。現在までに14件の登録があり、その内3件が成約している。更にバンクへの登録を促し、移住促進や民営賃貸住宅建設奨励事業や民営賃貸住宅建設促進助成事業などと絡め、有効活用を図ればと考えている。

質問 幌延町の保育の無償化について、10月を待たずに早期実施してはどうか。

町長 国からの財政措置に關しても、未だ不透明な部分もある。10月からの無償化実施に向けて検討を進めており、前倒しで実施する考えはない。

質問 定住・移住対策を医療地域、交通の充実を総合的に進める必要があり、高齢者の医療費の補助や町独自の減免制度を作ってはどうか。

町長 75歳以上の高齢者は、後期高齢者医療保険に加入しており、医療費助成などについては、町独自に医療費補助を考える予定はない。地域で暮らし続ける仕組みについては、総合的に検討していく必要がある。

質問 深地層研究センターの今後のあり方について、議会と議論し、幌延町としての考え方を原子力機構や経済産業省、文部科学省に申し入れするべきではないか。

町長 幌延深地層研究計画については、平成31年度末までに今後の工程等について示される予定。しかるべき時が来たら、議会をはじめ、皆様へご相談させてもらう。

質問 岐阜県瑞浪市で行われていた、超地層研究計画は、2022年1月16日に終了する。具体的には花こう岩を砂にして埋め戻すという具体的な話が岐阜新聞に掲載されている。

幌延町は非公式であったも、きちんと原子力機構に話を聞くべきではないか。

町長 こういう情報は、一向に聞いていない。瑞浪市についても、公開の原則で、説明されながら進んでると実感している。

幌延町は待つだけではない。年度中の研究は、推進すべきとお願いをしており、事前に教えてほしいということもお願いをしている。



深地層研究センター

質問 新たに地域おこし協力隊と集落支援員等の制度を活用するとしているが、どのように活用するのか。

町長 地域おこし協力隊については、ニーズに応じた活用について検討する必要